

はじめに

僕は幼少期から自然環境の豊かなアラスカへの憧れがあり、今回の留学が決まった時は大きな期待と高揚感で胸がいっぱいでした。本や映像で見たような広大な大地や極寒の冬が待っていると思うと、とにかく気持ちが高ぶって早く現地に行きたいという強い思いを持っていました。スキーや釣り、サイクリングなどアウトドアアクティビティが趣味だったため現地の人の自然の楽しみ方も関心がありました。



・大学構内で友人と観たオーロラ

アラスカへ

2021年8月、コロナ禍でしたがアラスカにわたることができて留学がスタートしました。まず現地に行くまでに言語の壁に阻まれ、英語の環境に一気に入っていくことが想像以上に大変でした。ウィルダネスウェルカムキャンプという大学のオリエンテーションに参加しましたが、これが僕にとって最初のアラスカの深い自然を見た体験でした。大学から9人乗りのバンで3時間ほど移動し、デルタと呼ばれるエリアでハイキングやカヤック、ブルーベリーピッキング、氷河ハイクなどをして規模や変化に富む自然、天候の様子がとても印象的でした。今でも鮮明に風景を思い出せるくらいの衝撃です。

アラスカの文化



・クロカンで大学構内を歩く

僕が在籍していたのはアラスカ大学フェアバンクス校で内陸のほうに位置する町でした。アラスカ第二の都市ですが人口は10万人ほどで、日本ではオーロラや犬ぞりなどで有名だと思います。200グループ以上のアラスカネイティブがいて、それぞれ独自の言葉と文化背景を持っています。1月には平均気温が-20度ほどでそれに極夜も加わり、暗い冬が4か月ほど続きます。11時に日が昇り2時には日が沈むという環境は僕にとってはとても奇妙でなかなか慣れませんでした。一方で夏場は1日中明るく、近くの湖へ夜10時ごろ釣りに

行ったり、真夜中に庭で読書をしたりと外で過ごす時間が非常に長く取れて魔法にかかったようでした。鉄道がありますが主に貨物用で移動は基本車です。ピックアップトラックが多く走っていましたが、ウォータータンク、スノーマシーン、4ウィラー、薪割り機など生活に必要な物を運ぶことが多いためだと分かりました。

履修した授業

現地では様々な授業を取りました。2学期制で、前半の秋学期はネイティブアート、ネイティブ言語のイヌピアク語、英語のライティングとリーディングの授業を履修しました。アートでは伝統的な方法で木製のスプーンや仮面を作ったりビーズアートをしました。冬期休暇をはさんで、後期の春学期は主に英語にフォーカスした時期になりました。クリエイティブライティングやスピーキングのクラスなど、よりアカデミックな内容でなかなかクラスのスピードに追い付くのが大変でした。とくにプレゼンテーションのクラスでは英語とコミュニケーションの両方の能力が試されて、恥をかいたりうまくいかないことが多かったです。友人と勉強に取り組んで何とか最後までやり切りました。



・カリブー皮にビーズを縫っていく

アウトドアアクティビティ



・川で釣ったピンクサーモン

アラスカではアウトドアの活動が生活の中に入り込んでいて、アラスカ特有の気候に合わせて様々な形で楽しまれていた。冬は極寒の中クロスカントリースキーをはじめ、犬を連れたアクティビティを目にすることが多く、犬とスキーをするスキージョアリング、ファットバイクで犬と走るバイクジョアリング、犬ぞりを楽しむ人が多かった。スノーマシーンも移動手段としてもアクティビティとしても楽しまれていました。夏はサーモン獲り、ベリーピッキング、ハンティング、ハイキング、サイクリングなど20時間近く日照時間があるため外で思う存分活動できます。夏は暗くて寒い冬への準備時期でもあるためドライサーモンを作ったり、ハンティングで獲った肉を干したり、薪を割っておいたり忙しい毎日を送っていました。サーモン釣りに行った際には川の兩岸に人があふれかえるほど並び、コマースフィッシングとしても、食料として確保するサブスタンスフィッシングとしても賑わっていました。

普段の生活

大学は授業によって90分や60分などばらつきがあり、週に1回の授業もあれば4回の授業もありました。隙間の時間には構内でクロスカントリースキーをしたりカフェに行ったり、放課後は大学構内のパブでお酒を楽しんだり日本と少し雰囲気は異なりました。レストランなどではチップを払うことが前提で、もともと物価が高いため一食が2500円以

上というのは普通でした。日本と比べて食事は味付けが濃かったり、甘すぎたりとアメリカの食事には何度も驚かされました。ピザはたくさん種類があり、おいしかったです。日本食がどうしても恋しくなりました。大学の課題は多く、毎日必死に取り組んで追いつく程度で、現地の学生の課題に対する姿勢はとても積極的でそこも日本と異なる点だなと感じました。



・レストランでの一枚

おわりに

今回のアラスカへの留学で現地に行かないと知ることができなかったこと、現地で生活して見えてきた日本の文化など相互の文化について考える時間がありました。生活の背景には様々な要素があって歴史を学んでその上に立つ現代社会を生活をしていると思うと今までは見えなかったつながりが今では見えるようになってきました。現地の人と話したり、アラスカに限らず日本や地元について調べたり本などを読むことはそのつながりを掴むために必要で、非常に面白いなと感じるようになりました。



・デルタエリアの山々

英語の環境での生活は楽しくて充実していた反面、厳しい面も多くあり、全部が楽しい思い出ではありませんでした。コミュニケーションの問題で壁にぶつかったり、言語の面でうまくいかなかったりしましたが何とか乗り越えました。今回留学をすることができて本当によかったです。アラスカの歴史、自然、文化について考え、日本の文化についても考え、自分についても考えました。ストレスのかかる留学生活でつぶれないで勉強できたのは支えてくれた方のおかげだと思います。皆さんに感謝をしたいと思います。これからも英語学習を続け、日本の文化も学び向上心を持って学習していきたいと思っています。ありがとうございました。